

ふれあいだより



鳥取大学附属特別支援学校 H24. 2. 3

学習環境は子どもたちに喜びを提供します！

副校長 竹信 純一

昨年秋に、長い間要望していた「プレイルーム」と「生活実習室」の改修工事が行われました。

プレイルームは小学部の子どもたちが朝の活動で、遊具を使って体づくりの運動をしたり、集会活動を行ったり、音楽でミラーボールを使ったファンタジーを行ったりと、様々な活動に使われています。ところが冷たくて固いコンクリートの上にタイルを貼り付けたただけなので、長く座ったり寝転んで体を動かしたりすると痛くて困っていました。そこで、この度の改修により、少しでも温かみのある木のぬくもりが伝わるような、そして転がっても弾力性のある柔らかい床面に変えていただきました。



また、生活実習室の一部を改修して「ワンルームマンション」となりました。社会に出て一人で生活をする人もいたり、修学旅行先でホテル宿泊の経験のない生徒もいたりします。そこで一人生活体験のできる部屋が完成しました。部屋には、キッチン、お風呂、トイレ、ベッド、テレビ、食器棚など、生活をする上で最低限必要なものが



そろっています。11月頃から12月にかけて、高等部の生活単元学習「卒業後の暮らしⅢ」の中で、マイライフグループが生活実習室に宿泊体験をしました。一人で買い物から食事作り、お風呂に湯を張り入浴、掃除、洗濯などをこなすことを通して、一人暮らしの苦労や喜びなどを学びました。

少しでも安心安全な学習環境づくりや将来の社会参加につながる施設設備の整備を行うことは、子どもたちに大きく影響を与えていると考えています。今後とも子どもたちの学習環境の充実を図りながら着実に力を伸ばしていきたいと思えます。

～学校より～

◎ふれあいデー（もちつき大会）

- ・2月14日（火）にふれあいデー（もちつき大会）を行います。今年度は、児童生徒会が中心になって計画を立て、準備を進めています。保護者の方にも、お忙しい中、当日ボランティア等でお世話になりますが、ご協力よろしくお願いします。



◎第2回学校公開週間

- ・2月15日（水）～21日（火）に、今年度2回目の学校公開週間を予定しています。既に授業予定等につきましては、学校からの案内もさせていただきましたが、多数のご参加をお待ちしています。

【1月25日 鳥取県でインフルエンザ注意報発令】

校内ではインフルエンザはまだ出ていませんが、県内では流行しています。これまでに以上に予防を心がけていきましょう。

- ①手洗い・うがい ②栄養と睡眠をしっかりと ③人混みをさける ④マスクの着用
家族がインフルエンザにかかっている場合には、本人に強い症状がなくてもマスクを着けていただくようお願いいたします。

平成23年度 公開研究会

研究主任 谷口由紀子

平成21年度からはじまった研究テーマ「個の育ちをつなぐ教育課程」のもと、12月9日(金)に公開研究会を行いました。今年度も保護者の皆様には、たくさんのご協力をいただき、ありがとうございました。

当日は、県内外から教育関係者の方々に来校していただき、学習の様子を見ていただくことができました。どの学部でも落ち着いて学習に取り組む児童生徒たちの姿が見られ、学習に向かう姿勢や、目標に向かって友だちと共に取り組む力が育っていることを感じることができました。その後の学部別分科会では、単元の学習内容や児童生徒の成長している様子等について学部の担当者が提案発表を行い、研究協議の場を持ちました。参加者からいろいろな意見をいただいたり、指導助言の先生方から多くの示唆もいただいたりしました。これらをもとに3年間の研究をまとめ、成果と課題を明らかにして、児童生徒の「自分づくり」をこれから先も支援していきたいと思えます。

公開授業の内容

○小学部	日常生活の指導「朝の会」 生活単元学習 「ほかほかパーティーをしよう」 ～パーティーの準備をしよう～
○中学部	生活単元学習 「Let's ミュージカルⅣ」 ～たくさんのお客さんに見てもらおう～
○高等部本科	生活単元学習 「卒業後のくらしⅢ」 [マイリビンググループ] ～すてきな大人になろう～ [健康グループ] ～マイヘルシーライフ～ [マイライフグループ] ～自分らしいくらし方～
○高等部専攻科	くらし 「研修旅行」 ～会話を広げよう、出会う人との雑談で～

また、講演会では、大阪市立大学大学院教授の湯浅恭正先生に、「特別支援教育における集団づくりと授業づくり」という演題で講演をしていただきました。この講演を通して、子どもに誇りを育てることの大切さや、集団づくりの意義などを学ぶとともに、学習の共同化と参加をキーワードに授業を作っていく教師の支援についても確認することができました。

今年度も研究テーマに、「個が生きる集団づくりに視点をあてて」というサブタイトルを設け、全学部で『『生活を楽しむ子』を育む』ための、「自分づくり」を大切にした取り組みのもと、児童生徒たちの「集団づくり」を支援する取り組みを進めてきました。この研究の授業づくりを通して、児童生徒たちの人との関わりの姿を再確認することができました。小学部では学校で友だちの輪を拡げていき、中学部では友だちが共に取り組む仲間となり、仲間と共に少しずつ地域へと出て行くようになります。高等部では仲間との関わりが深まり、地域や社会の人とも多く関わっていくことがわかりました。これら研究で得たものを今後も生かして、本校ならではの教育を進め、児童生徒たちの主体的な活動を大切にして、教育実践を行っていききたいと思います。

高等部本科の紹介

高等部主事 加賀田 保憲

高等部には25名の生徒が在籍しています。穏やかで優しい生徒が多く、落ち着いた雰囲気の中、日々の学習に取り組んでいます。卒業後のくらしを豊かなものにするため、働く力、くらす力、余暇を楽しむ力などを高めることに努めています。これらの力を伸ばすためには、「自分は～したい」という憧れ・願いを生徒自身が抱き、主体的に活動に取り組み、挫折を乗り越えながら達成感や成就感を味わい、自己肯定感や自己有用感を育んでいく「自分づくり」が大切と考えています。個性を生かし、人生の主人公として生活づくりに向かう生徒たちを応援します。

【働く力】

高等部の作業学習は、農園・木工・陶芸・エコの4つのグループで行っています。現場実習は2週間の実習を1年生1回、2・3年生は2回実施します。生徒・保護者の希望を把握しながら実習先を決め、本人に適した進路の決定ができるように体験を積み上げていきます。実習では、職場に必要な知識・技能はもちろん、通勤、挨拶・返事、人とのコミュニケーション、エチケット・マナーなども学ぶ良い機会となります。将来を見据え、一つ一つ着実に力をつけていくことの大切さを感じます。



【くらす力・余暇を楽しむ力】

高等部の生活単元学習では、社会生活・家庭生活に必要な知識や技能を身につけ、実生活に役立てることをねらい、「卒業後のくらしⅠ～Ⅳ」の単元を設定しています。「卒業後のくらしⅢ」では、学年を解いて、「健康」「マイリビング」「マイライフ」の3つのグループに分かれて学習しました。今年度新設された生活実習室を活用して一人宿泊体験を行ったり、地域の公民館、体育館、郵便局、コンビニエンスストア、警察署などに出かけ、利用の仕方を知るとともに、人とのつながりを広げたりしました。持てる力を地域社会に役立て、生き生きと生活する力を伸ばしていきたいと思ひます。

研修旅行（高等部専攻科）

専攻科主事 杉本 晃久

昨年12月10日～12日に名古屋方面へ研修旅行に行ってきました。これまで毎年参加してきている「全国専攻科研究集会」が、今年度は名古屋で開催されることもあり、名古屋方面を中心にして生徒たちが研修計画を立てました。11月に行われた専攻科合宿での成果や課題を踏まえ、研修日程・行き先・行き方等、自分たちで調べたり、しおりにまとめたりして準備を重ねてきました。その中で研修旅行の全員のめあてとして「自分で考え、仲間と協力して」を掲げ活動しました。専攻科合宿の際には、目的地での行き方がわからなくなった時に、なかなか自分から街の人に尋ねることができませんでしたが、研修旅行では、街の中や駅などの看板や準備していた地図を見たり、街の人にも自分から尋ねたりする姿も日を追うごとに増え、できるだけ自分たちだけで考えて行動するようにしました。

また、1日目の全国専攻科研究集会では全国の専攻科の方達とそれぞれの学校や地域の様子を発表し合い、互いに交流を深めることができました。本校も学校や鳥取の名産品などについて、事前に調べたりまとめたりしたものを絵や写真も取り入れてクイズ形式にして発表したり、ふれあいピックで披露した「炎」のパフォーマンスも行ったりしながら会場の方に紹介することができました。会場の方からも大きな拍手をいただき、生徒たちにとっても今後の自信になったようでした。

その他、それぞれの見学先での地域の方との出会いの中で、自分から積極的に話しかけることで、相手の方との会話が弾む場面もあり、会話を通した人との関わりの幅を広げる貴重な機会になりました。これら研修旅行で得た経験を、今後の学習・生活に生かしていきたいと思ひます。

